

月刊 アカサス ニュース

第26号 1998(平成10年).7

8月号は夏休みのため休刊します。

「アカサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

6月の空、さわやかな歌声がこだまする

附属中学校合唱コンクール

トップニュース Top News



課題曲「地球よ」を合唱する1年3組の生徒たち
= 6月13日, 教育学部附属中学校体育館で

6月, うっとりしい梅雨空を吹き飛ばすようにさわやかな歌声が流れた。

まず13日には, 教育学部附属中学校で「平成10年度合唱コンクール」が行われ, 各クラスが学年ごとの課題曲とそれぞれの自由曲を披露した。続く14日は, 本学合唱団(学生サークル)らが, 慰問コンサートなどを目的に石川県入りしたハーバード大学(アメリカ)の男性アカペラコーラスグループ「クロコディロス」と学生同士の草の根の交流を楽しんだ。



談笑する本学学生とクロコディロスのメンバー

ハーバード大コーラスグループ

本学合唱団, 「クロコディロス」と交流



自由な服装でコーラスを披露するクロコディロスの面々
= 6月14日, 金沢ニューグランドホテル(金沢市高岡町)で





巻頭言

地域に根ざす
金沢大学へ



学生部長

共同研究センター 運営委員会委員
(理学部教授)

廣瀬 幸雄

戦後50年、我が国は一貫して、大量生産・大量消費を可能にする社会システムづくりに邁進してきた。画一化と同質化。それがこのシステムを達成する主要な手段であった。当然、個々の人間の個性と存在意識は希薄になり、地域社会も同じ鋳型で鋳られ、没個性なものとなった。

今、パブルが崩壊し、不況に直面して、時代の低流が変わりはじめているのに、ようやく気づかされた。本当の豊かさとは何だろうとの思いである。幸福感、感動、生きがい、他者への思いやりといった人間の生存にかかわる基本条件であり、それらが許される人間に優しい社会への思いである。

もはや無限の成長時代は終えんした。グローバルアースの中での競争の共生へ、舵はきられた。この社会思潮が勃興し成熟にいたるには、世紀に渡る膨大な時間を必要とするだろう。しかし確実にヒューマン・ルネッサンスの時代の幕は開けられたのである。

一人ひとりが、かけがえのない存在であるはずの、人間のアイデンティティは、まず日常生活の生活基盤である地域社会に負うところが大きい。地域社会のありように眼を向けることは、自己のアイデンティティを問うことである。また、大学の使命は、真理を追求し、知を磨き、来るべき未来を形づくることであり、壮大な創知の坩堝であるべきである。大学人が、閉鎖社会に閉じこもって、内的発露を待っていては、道は遠い。地域社会に率先して入り込み、限りない情報と清新な刺激を共有して、共に問題解決に取り組まねばならない。大学と地域社会は、相互に啓発しあう、主体であらねばならない。

「金沢大学共同研究センター」の本旨はこの点にあるといていい。互いに連携を深め、地域振興の知的拠り所となり、地域社会を共に考え、共に模索するセンターでありたいものと思う次第である。

新たに15名に名誉教授の称号を授与

6月3日、事務局大会議室で名誉教授の称号記授与式が行われた。今回新たに名誉教授となったのは、平成9年度に退職等をされた教授のうち各学部から推薦のあった次の15名の方で、5月15日開催の評議会で決定されたものである。

これにより、本学における名誉教授の称号記授与累計数は317となった。

新たに名誉教授になられた15名の方々

(平成10年4月1日付け。部局順)

- | | |
|--------------|-------------|
| 島田昌彦氏 (文学部) | 永坂鉄夫氏 (医学部) |
| 高澤裕一氏 (文学部) | 大場義樹氏 (薬学部) |
| 新田一郎氏 (文学部) | 太田秀樹氏 (工学部) |
| 久志本茂氏 (教育学部) | 杉田忠彰氏 (工学部) |
| 村田武氏 (経済学部) | 澄田宏氏 (工学部) |
| 高山俊昭氏 (理学部) | 松村文夫氏 (工学部) |
| 松本崧生氏 (理学部) | 安井武司氏 (工学部) |
| 谷本一夫氏 (医学部) | |

()内は最終在籍部局名



学長から名誉教授の称号記を受け取る方々
= 6月3日、事務局大会議室で





新制大学50年の期待と課題を語る

羽田貴史・広島大助教授を囲んで懇談会



講演を行う羽田氏
= 6月19日，事務局大会議室で

50年史^{へんさん}編纂室は、6月19日、広島大学大学教育センターの助教授で、「東大百年史」の編纂にも携わった羽田貴史氏^{はたがし}を招き、「新制大学50年と大学史編纂への期待 50年目の大学史の課題は何か?」をテーマに懇談会を開いた。

本学でも創立50周年を翌年に控え、年史の編纂に携わる者など教職員約50人が出席し、活発に意見交換した。



活発な質疑応答がなされた懇談会の模様
= 同上

献体者の御遺骨返還式をしめやかに執り行う 併せて文部大臣感謝状も伝達

医学部十全講堂で、6月20日、「平成10年度献体者御遺骨返還式」が挙行され、御遺族、医学部学生など関係者約570人が列席した。式では、医学教育の発展のために献体された方々に対して参加者全員で黙とうと献花を行った後、中西功夫医学部長から故人29名の御遺骨が遺族の方々に返還された。これに先立って、遺族の方々に文部大臣の感謝状も併せて伝達された。

また同日、病理解剖^{めいぶく}献体者を含めた計187名の方々の御冥福を祈る「第96回合同慰霊祭」もしめやかに執り行われた。



祭壇の前で中西医学部長(中央)から御遺骨を受け取る遺族の方
= 6月20日，医学部十全講堂で



大学院医学研究科 分子情報医学系専攻の設置を祝う

医学部附属神経情報研究施設が平成10年度に改組され、大学院医学研究科に分子情報医学系専攻（独立専攻）が新設されたことにより、6月1日、医学部記念館で記念式と記念祝賀会が行われた。

記念式では、岡田晃学長の式辞に続き中西功夫医学研究科長と東田陽博教授^{ひがしはるひろ}前神経情報研究施設長があいさつに立った。続く祝賀会では、関係者約100人が新専攻の設置を祝った。



記念式であいさつに立つ中西医学研究科長
= 6月1日、医学部記念館で

附属幼稚園 「第44回教育研究発表会」を行う

教育学部附属幼稚園は、6月2日、「自分らしさを出しながら生き合う生活 “かかわり” の変化を通して」をテーマに第44回教育研究発表会を開催した。平成7年度からは、友達、教師、環境とのかかわりの中で切磋琢磨^{せつたくま}しながら自分らしさを出していく幼児をより深く理解しようとの目的で開催している。今回の研究発表会には、県内外から200人を超える教育関係者が参加した。



“実際指導”を行う教諭を熱心に見学する参加者
= 同日、教育学部附属幼稚園保育室で



山梨大学加藤繁美助教授による講演「自分らしさを育てる保育実践」
= 6月2日、教育学部附属小学校ランチルームで





6月の全国・ブロック会議

本学が当番で開催した全国又は地方ブロックの会議

平成10年度北陸信越地区国立大学工学部長懇談会

6月4日と5日の両日、工学部秀峯会館で、「平成10年度北陸信越地区国立大学工学部長懇談会」が開かれた。

同会議には、本学を含めて7機関から20名が参加し、工学系学部がかかえる諸問題について協議を行った。



林勇二郎工学部長の進行で進められた会議
= 6月4日、工学部秀峯会館で

学生寮で消防訓練を実施

このほど白梅寮と泉学寮において、“消防訓練”が実施された。2寮とも、出火を想定しての消火器や屋内消火栓による消火訓練、避難訓練など、総合的な実地訓練を行った。その後、金沢市広坂消防署員による避難、消火についての講話があり、寮生たちは迅速に対応するための心構えを真剣に聞いた。



消火器を使った消火訓練の様相
= 5月30日、白梅寮で

本学へのお客さま(6月)



釜慶大学(韓国)趙洪正図書館長(前列右から二人目)ほか
= 6月16日、総合情報処理センター玄関で



ロイヤルメルボルン大学(オーストラリア)下茂りか講師(左)と中田やよい講師
= 6月22日、事務局第2会議室で



附属高校 生徒も加わりオペレッタ熱演

財団法人日本オペレッタ協会は、6月18日、教育学部附属高等学校でオペレッタ(=音楽劇)「ワルツの夢」を公演し、高校生たちは時には演者にもなり、一つの舞台を創り上げた。これは、文化庁の「平成10年度舞台芸術ふれあい教室」の一環として行われたもので、公演を終えた協会会長の寺崎裕則氏は、「舞台・観客・演奏者の三角形のキャッチボールができたことは本当に素晴らしい。」と充実感を語った。



協会会長らの指導により観客も一体となって行われたリハーサルの模様
=6月18日、教育学部附属高等学校体育館で

6月5日は 世界環境デー 附属中学校 GLOBE委員がんばる

教育学部附属中学校は、平成9・10年度の「環境のための地球学習観測プログラム」(英語の略=GLOBE)のモデル校として文部省の指定を受けている。36名のGLOBE委員は交代で毎日、雲の量や種類、降雨量やpH等を観測し、インターネットによりデータを送信している。このプログラムは、米国ゴア副大統領によって提唱され、世界55か国の4,000校以上をネットワークで結び、地球規模の環境を学習しようとするものである。



気温等を観測する生徒たち
=6月5日、教育学部附属中学校校庭で



資料館コレクション(その12)

すずかめ すずすり鉢 「珠洲甕と珠洲擂鉢」

このかめとすり鉢は、1890年(明治23年)に大海川流域の余地経塚(石川県高松町)から、多数の和鏡と鉄剣を伴って出土した。かめの表面には打ち込みの鋭い細密なたたき目が施されており、すり鉢には卸し目はなく、小さなべらによる抽象図文があしらわれている。共に初期の珠洲焼の基準作例といえる。

二つの資料は、本年10月7日から11月5日まで、珠洲市立珠洲焼資料館の特別展に出品されることとなっている。

(現在は、資料館展示室で展示中)



珠洲甕

制作年代 12世紀
寸法 高さ35.8cm
口径25.0cm
胴径36.5cm
底径14.5cm

珠洲擂鉢

12世紀
高さ12.0cm
口径28.0cm
底径10.7cm





「金沢大学概要」が完成

このたび、「金沢大学概要(平成10年度)」が出来上がり、学内外に配布された。

今年度は、資料館の主要コレクションが新たにお目見えしたほか、建物等配置図に第一期計画事業用地のより具体的な情報が盛り込まれた。

なお、平成10年度版は初めて「KUPIS」(本学のホームページ)の「金沢大学総合案内」の部分に掲載された。



このほど完成した「金沢大学概要(平成10年度)」

愛鳥週間ポスターコンクール 八日市屋 晃子さん(附属中 3年)に最優秀賞

石川県環境安全部が行った「平成10年度愛鳥週間ポスターコンクール」で、教育学部附属中学校の八日市屋晃子さんの作品が見事、最優秀賞に輝いた。同コンクールは、5月10日から16日までの愛鳥週間の期間中に応募のあった作品を審査し、優秀な作品を表彰したもので、附属中学校からは、5人が入賞した。これら優秀作品は、「環境月間ポスター」とともに、6月18日から23日まで、市内のデパートで展示された。



環境月間・愛鳥週間ポスター展の会場
= 6月23日、大和8階特設会場(金沢市香林坊)で

ポスター作品を裏表紙に紹介

編集後記

4月に金沢大学にお世話になり、3回のアカンサス ニュースを配布することができた。4月号のトップニュースは“宝町再開発スタート”、5月号は、“総合移転第一期計画事業の鍬入れ式・起工式を行う”など明るい話題が多く、完成後の金沢大学を想像するだけで夢がある。

この時期には、全国会議が集中し、会議の話題も大学審議会の中間まとめ「21世紀の大学像と今後の改革方針について」

の報告がほとんどである。大学改革は着実に進められているが、更に積極的な改革推進が必要と思われる。

アカンサス ニュースも多くの方々に読んでいただくために皆さんの御意見を取り入れつつ、いつまでも愛されるグラフ広報紙を目指して取り組んでいきたい。

まもなく夏休み、今年の夏は、夏季休暇と年次休暇の計画的使用のためにもリフレッシュしてみませんか。(山崎)



愛鳥週間ポスターコンクールの優秀作品を紹介!

附属中学校の入賞者の皆さん、おめでとうございます。

(関連記事は7ページ)



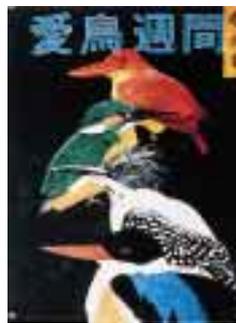
最優秀賞 教育学部附属中学校3年 八日市屋見子



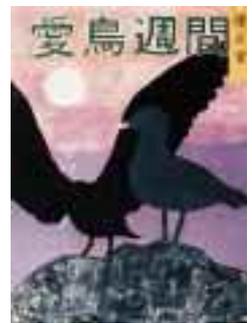
優秀賞 同3年 赤谷美帆



優良賞 同2年 大塚雅世



優良賞 同2年 田村美葉



優良賞 同2年 山崎奈緒美

THE DORAKU ②

写真

浅野川の竜



学生時代、趣味は写真。当時は白黒。現像、焼付、引伸し、全部自分でやった。金沢へ赴任しても同様。農地に出来た三間の市営住宅。夜は暗くて便利だった。近くの卯辰山、臥竜山ともいうそう。近くのお寺へも時々竜がそーっと聴聞に来るといふ。私の鈴見橋の上からの写真にも竜が写っているようである。科学者の私も、この竜さんだけは信じていたい。

金子曾政 (元学長)

このコーナーは、皆さんの趣味や熱中していることなどを紹介するコーナーです。写真や絵画に限らず、いろいろな作品や季節感あふれる話題などをお寄せください。いつでも撮影に出向きます。

平成10年7月17日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キューピーズ)」
(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。
本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。

